研究紀要の発刊に寄せて

校長　並川　直人

第２号となる令和４年度の研究紀要を発行することができました。令和３年度に続き、学校経営計画に掲げている、「学習成果の客観的評価をもとに、全教職員が出席してコア課題を設定し、全日制全体で生徒の学習課題の解決に取り組み、学力を伸長させる」において、普通教科では「読解力の向上」、農業科では「プロジェクト学習の充実」を協議題として協議を行い、それを学習指導で実践し評価・検証してフィードバックする活動が行われました。

経営計画では読解力の定義は示していませんが、「言語活動の充実」の項で、本校では、特に「読解力」を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」も重視する。生徒の思考場面を重視した「考え抜く授業」を実践する。定義の理解など、教科書を読んで理解できる力・表現できる力を育成する。としています。

読解力とは、「文章を読んでその内容を理解し、解釈する力」のこと。さらに言えば、文章だけでなく、他者とのコミュニケーションの中で、相手の置かれている状況や感情、伝えたいことを把握し、理解する力でもあり、日常の様々なシーンにおいて必要とされる能力であります。それこそ生徒が直面する、進学や就職の面接場面で、面接官からの問いに「正対する」のも読解力が必要です。

PISA による読解力の定義を参照してみると、読解力を３つの力「情報を探し出す力」「理解する力」「評価し、熟考する力」に分解しています。研究授業やオープンに公開された授業を参観していると「情報を探し出す力」「評価し、熟考する力」の育成に課題を感じています。また、グループワークや全体での発表場面では、「自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明することに引き続き課題がある」と感じました。

一方の柱である「プロジェクト学習」の充実は、学びの環境の変化を受け、令和の Society 5.0 時代に生きる子供たちにとっての農業教育を実現するため、主体的な学び、個別最適な学び、協働的な学びを一層充実していくための重要な鍵を握っています。プロジェクト学習は「課題解決型学習」の一つであり、農業教育と親和性の高い STEAM 教育や PBL は本校で育成すべき読解力とも密接に繋がっています。

学習方法の基本を学び、農業学習に対する主体的な学びへ導き、農業の各分野に関する学習を行うとともに、問題を発見し、解決するための提案力、持続可能な社会をよりよくする人材の育成へと進めていきたいと考えています。

令和４年度の若手教員育成研修や研究員の先生方の実践はこれらの育成課題を意識した実践であり、今後は学校全体で各教科・科目や特別活動までを含め、生徒の読解力、課題発見・解決能力を高めるには、点から線へ、そして面へと結ぶために各科目においての指導が望まれます。

結びに、本校での研究推進にあたり、取組を温かく御指導下さいました研究部主任、教科主任をはじめ関係の皆様に心より感謝申し上げます。

今後さらに研究実践を深めて参りたいと存じますので、御高覧いただきました皆様には一層の御指導を賜りますことを重ねてお願い申し上げます。